

春日井市の“共生”を考える

フィリピン人の生活と「多文化共生計画」への参加

Mary Angeline Da-anoy
ダアノイ. メアリアンジェリン

表 1: フィリピン人が多数居住する愛知県の都市
(愛知県多文化共生室のデータ、2009年12月)

・ フィリピン人が多数居住する愛知県の10都市

1. 名古屋	7,378人
2. 豊橋	1,880
3. 岡崎	1,306
4. 一宮	1,229
5. 豊田	1,233
6. 安城	1,071
7. 春日井	1,032
8. 刈谷	951
9. 小牧	818
10. 瀬戸	530
11. その他の都市	8,029

合計 25,457人

**表2: 愛知県の国籍別登録外国人人数
(愛知県多文化共生室のデータ、2009年12月)**

1. ブラジル人	67,162 人	(31.3 %)
2. 中国人	47,099	(21.9 %)
3. 韓国・朝鮮人	40,643	(18.9 %)
4. フィリピン人	25,923	(12.1 %)
5. ペルー人	8,067	(03.8 %)
• その他	25,922	(12.0 %)
• 合計	214,816人	

問題意識は？

1. フィリピン人移住者はどのように多文化国家日本に位置づけられているか？
2. その位置づけを変えるために、フィリピン人は日本社会でどのような行動をしているか？
3. 多文化共生を生み出すプロセスにおいて、市民社会（NPO、外国人移住者団体、町内会組織）はどのような影響を与え、役割を果たすのか？

社会的な位置づけ

- フィリピン人は「ガイジン」もしくは外部者として周辺化されている
 1. フィリピン人は「他者」であり、日本社会に所属していない
 2. 売春婦、不誠実な妻、悪い母親(というイメージ)
 3. 横柄で悪名高い隣人であり、地域社会の住人として目立つ存在である
 4. 「隔離居住」また/もしくは「犯罪者集団」

Filipino Migrants Repositioning themselves

- 多文化共生計画への公式参加
 1. トラブルを抱える同胞へのカウンセリング・プログラム
 2. 言葉が不自由な同胞への通訳、翻訳
 3. ドメスティック・バイオレンスの被害者、経験者への支援
 4. 言語習得プログラム
- 意識的、自発的な共同体への参加、統合
 1. 隣人との自発的な交流
 2. 町内会などへの積極的な参加
 3. 共有価値の醸成
 4. フィリピン人としての意識を持ちながらも、社会統合のために共同体のルールや価値を尊重すること

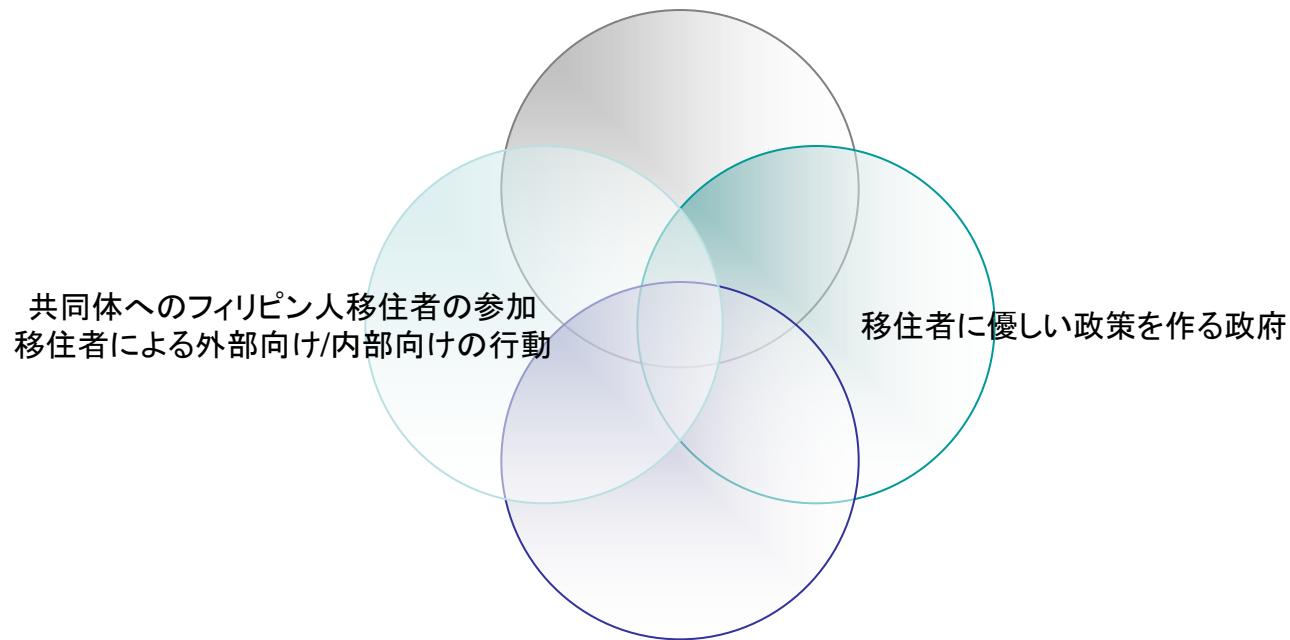
市民団体の役割

- **多文化共生を実現するために主要な役割を果たすNGOの支援とネットワーク**
 1. 来日したばかりの移住者への実用的・現実的な支援
 2. 移住者による政策・意見・提案活動の支援
 3. 移住者の関心に応えられるように自治体の政策を変更、改革することを支援
- **フィリピン人移住者機構**
- **外部向け行動**
 1. フィリピン人移住者支援のためのプログラム作り
 2. 政策・意見・提案活動
 3. 在日フィリピン大使館などに政策変更を要請する
 4. 日本の地方自治体に、地元でフィリピン文化が根付き、また2つの文化が共生できるよう働きかける
- **個人や集団がエンパワーメントするための内部向け行動**
 1. リーダー養成トレーニング
 2. シンポジウム開催
 3. 内部での批評、批判を奨励

提言

多文化共生を促進するための多面的アプローチ

日本人—フィリピン人(外国人)移住者間で
共有価値を創るための努力



市民社会/NGOや個人の参加と介入